

## I. 総論

### ＜ファイナリストチームへのメッセージ＞

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、（１）アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、（２）COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリソースの範囲で検討してみること、（３）アイデアの実現フェーズに移行するには（１）の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

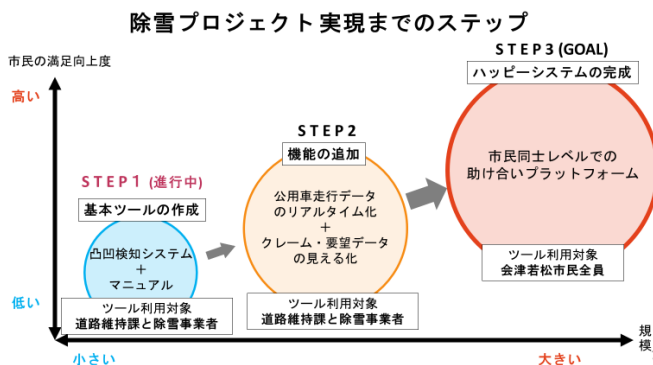
これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス2017フェーズ2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

### 地域と「つながる」、除雪プロジェクト

（応募チーム：STEM Leaders with Hanyu）

（特徴）

このプロジェクトは会津大学の学生チームと市役所の協働によるより効果的な除雪による市民満足度の向上を目指すもので、特に非公開データを含めて市役所が提供したデータ活用による凸凹検知システムの開発から、将来は市民ボランティアまで視野に入れた総合的なアイデアであることに特徴がある。しかもアプリの開発はすでに手掛けているという地道なものであるといえよう。



(アドバイス)

(1) 学生チームの継承

このアイデアを手掛けているのは学生であり、一番大きな課題は卒業していく学生チームの継承です。学生に期待される能力としては、①アプリ開発の能力を持った学生の新たな参加と、②今後の除雪ボランティアの積極的な参加など社会的な仕組みを組み込んでいくことを担っていく学生の参加が必要ですので、そのための体制の継承の基礎固めを着実に進めて欲しいと思います。

(2) 凸凹検知システムのさらなる磨き

今開発している凸凹検知システムが実際の利用でどの程度有効なのかの検証を市役所の道路維持課と関係業者と一緒に冬場を中心に行い、必要な改善やマニュアル作りに取り組んでいただけたらと思います。

(3) 一步一步のステップアップ

上の図にあるように、このアイデアが完成するまでには、アプリへの機能の追加、市民同士の助け合いのプラットフォームと進んでいきますが、ステップ3になるとそれまでのアプリ開発とは違った要素が入ってくるので、ステップ3への取組についても今のうちから準備を始められたらよろしいかと思います。

(4) 行政部内での学生との協働による効果のPR

本アイデアは会津若松市役所建設部と市民力学生力と連携したプロジェクトであり、こうした地域の力を活用していくことのメリットを他部署にも広げるべく、市役所内での経験の共有のためのセミナーや状況に応じて市民学生の参加による経験共有の場を設けられることがよいかと思われます。